

赤字修正箇所

修正箇所：

- 「1. 5」「1. 9」「2. 2」「2. 7」「2. 22」 →PJL 登録方法変更に伴う修正
- 「1. 3. 1」 →タスク計上本数を階段設定
- 「1. 4」 →外国人参加選手の参加資格を明記
- 「4. 20」 →スコアリングシステム・パラメータ関連の修正

その他は従来の運用と変更の無い軽微な変更・文言補足等

※2022年度からはシード選手枠は30人⇒20人とする予定。それに伴いセレクションルール（P1・P2を20位まで）、ランチオーダールール（初日優先権を20位まで）と変更予定

1 概要

1. 1 FAI スポーティングコード

- ・パラグライディングジャパンリーグ（以下 PJL と略す）の競技規定は、FAI Sporting Code の General Section と Section7 を前提として設定されている。参加選手はその双方を良く理解した上で大会に参加すること。
- ・PJL ルールと FAI Sporting Code の間で疑義が生じた場合は PJL ルールを優先する。
- ・FAI General Section と Section 7 の間で疑義が生じた場合は General Section を優先する。

1. 2 開催期間

PJL の年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終了する。（これは大会の成績の出る日で管理する）。

1. 3 PJL ランキング

PJL ランキングにはオープンクラスとスポーツクラス（「パラグライディング公認大会規則 D-5」に定める機体のうち、CIVL COMPETITION CLASS（CCC）および EN-D の 2 ライザー認証機を除いたクラス）の 2 クラスがある。

1. 3. 1 PJL ランキングへの計上タスク

PJL の成立条件を満たして成立したタスクの内、そのデイクオリティが 0.2 以上のものを基に 1.7 項で算出した点数の合計点でつけるランキングである（同点の場合は本人の参加した全てのタスクから算出した 1 本あたりの平均点の高いものを上位とする）。

合計できるタスク本数は、**デイクオリティ 0.2 以上のタスク成立本数に依らず 3 本を上限とし、デイクオリティ 0.2 以上のタスク成立本数により決定**する（3 本未満の場合はそのタスク本数の合計）。

- | | |
|-------------------|--------------|
| ランキングへの計上タスク：1タスク | →成立本数が1～3タスク |
| 2タスク | →成立本数が4～5タスク |
| 3タスク | →成立本数が6タスク以上 |

1. 4 参加資格

PJL への参加資格は次のものとする。

- ・大会期間中有効な JHF フライヤー登録証を所持していること。
- ・JHF PG クロスカントリー技能証（XC 証）を所持していること。

- ・有効な FAI スポーティングライセンスを所持していることが望ましい。(カテゴリー2 大会・日本選手権の場合は必須)

海外から参加する外国人選手の参加資格は次のものとする。

- ・大会期間中有効な JHF フライヤー登録証を所持していること。(大会受付当日の申請を可とする)
- ・IPPI Card ParaPro 5 (Cross Country)を所持していること。
- ・有効な FAI スポーティングライセンス(日本以外で発行されたもの)を所持していることが望ましい。(カテゴリー2 大会・日本選手権の場合は必須)

1. 5 PJJ への登録方法

・PJJ 参加希望者は、パラグライディング競技委員会(以下、PG 競技委員会)ホームページへログインして PJJ の参加申請(ID 番号取得)を行った後、PJJ 大会に参加した時点で自動的に PJJ 登録されたものとなる。(PJJ への参加費用は大会参加費用に含まれる(500 円/大会))。パラグライディング競技委員会の指定口座に登録費を振り込む。登録費の入金が確認された時点以降の大会公式リザルトから PJJ ランキングポイントが有効となる。大会へエントリーする際には PJJ 登録番号(ID 番号)が必要となるので、大会エントリー以前に PJJ への参加申請を済ませておくこと。

なお前年度に PJJ ランキングポイントを得た選手は当年度が始まる時に自動で参加申請(ID 番号取得)が行われる。たものとして扱い、登録費の振り込みが行われた時点で登録されたものとする。

1. 6 保険加入

各自の責任で、傷害保険に加入しておくことが望ましい。

1. 7 PJJ ランキングポイント計算式

PJJ ランキングポイントとして計上できるのは、タスクのデイクオリティが 0.2 以上となったものを基に次のよう計算される。

ポイント = (タスク得点) × (1 + S/100) (小数点以下第 2 位を四捨五入し、第 1 位まで算出する)

ここで S : シード係数 (PJJ として成立したタスクに参加したシード選手のシード係数値(注 1)の合計値)

(注 1) S の算出の基礎となるシード係数値は下記の通りとする。

前年度の PJJ ランキング (オープンクラス)

1 位~10 位 1 名につき 2

11 位~30 位 1 名につき 1

当年 1 月 1 日時点の CIVL のホームページに掲載されている

WPRS ランキング 1 位~50 位 1 名につき 3

51 位~100 位 1 名につき 2

1. 8 リーグ表彰

PJJ 各クラスの年間ランキングから、オープンクラス(総合 6 位までおよび女子 3 位まで)、スポーツクラス(総合 6 位まで)のそれぞれに対し行う。

1. 9 PJJ 登録費用 エントリーフィー

PJJ への参加費用は各大会参加費用に含まれる(500 円/大会)。エントリーフィーは年間 ¥2,000 とする。

1. 10 登録番号 (ID 番号)

前年度 PJJ ランキング（オープンクラス）の順位を当該年度における PJJ 大会の ID 番号とする。それ以外は PJJ 参加申請順の番号を当該年度の ID 番号とする。

1. 1 1 使用機体

PJJ 大会で使用可能な機体は、「パラグライディング公認大会規則」に定められているものに準じる。

1. 1 2 PJJ 大会数の上限

PJJ 大会の各年度の大会数の上限は 10 戦とする。

2 大会開催規定

2. 1 大会開催の申請

大会開催にあたって、大会エントリー締め切り 2 ヶ月前までに、次に示す書類を JHF 事務局に提出すること。電子データが望ましい。

- ・所定の申請用紙
- ・開催要項
- ・参加誓約書
- ・ローカルルール
- ・ウェイポイントリスト（テイクオフ・ターンポイント・ゴールの WGS84 コーディネートが記載されたもの）
- ・エリア地図（5 万分の 1 で予定されているテイクオフ、ターンポイント、ゴールが記入されているもの）

2. 2 セレクション

~~参加申込者の受理は PJJ 登録選手（エントリー締め切り日までに ¥2,000 振込が確認できた選手）を優先する。（空いた分を PJJ 未登録者（エントリー締め切り日までに ¥2,000 振込が確認できない選手）に開放する。ただし、PJJ に登録していない海外から参加する外国人選手は対象外とする）~~

エントリー選手数が大会の受け入れ人数を超えた場合には、以下の優先順位でセレクションを実施する。（P は Priority の略）

P0：参加受け入れ人数の 5%（少数は切り捨て）を主催者の裁量で選定する。

P1：前年度の最終 PJJ ランキング（オープンクラス）30 位までの選手から選定する。

（含まれる女子選手数を P1W とする）

P2：前年度の最終日本代表選抜ランキング 30 位までの選手から選定する。

（含まれる女子選手数を P2W とする）

P3：受け入れ人数の 10%（小数点以下は切り上げ）を前年度の最終 PJJ ランキング女子（オープンクラス）から選出する（P1W と P2W を含んで 10%とする）。

P4：受け入れ人数の 10%（小数点以下は切り上げ）を前年度の最終 PJJ スポーツクラス上位選手から選出する（P1～P3 で選定された人数を含んで 10%とする）。

P5：受け入れ人数の 10%（小数点以下は切り上げ）を年齢が 30 歳以下の選手（当該年度 1 月 1 日以降に 30 歳を迎える選手を対象とし、当該年度は有効とする）から選出する。年齢が若い選手から優先的に選出し、同一年齢の場合は誕生日が遅い選手を優先する。

P6：それでも枠が残った場合は、抽選とする。（抽選の考え方は補足 2（最終頁）を参照）

* カテゴリー 2 大会の場合、カテゴリー 2 大会のルールに従い外国人選手枠は 25%以上とする。

* カテゴリー 2 大会ではない PJJ 大会の場合には、海外から参加する外国人選手は大会のエントリー受け入れ

人数に含まれないものとする。

*セクションが上記ルールで選定不可の場合、主催者が判断できる。

2. 3 大会期間

大会期間は連続した日とする。

2. 4 参加人数

大会の選手受け入れ最小人数は50人とする。

2. 5 ローカルルール

ローカルルールはJHPG競技委員会の承認を得る必要がある。ローカルルールは参加選手に事前に広報される。

ローカルルールに明記しなければならない事項は：

- ・テイクオフ方法
- ・テイクオフ方法としてランチオーダーシステムを採用する場合は、ランチオーダーの決定方法。
- ・リフライトを許可するかどうか。許可する場合は、その方法（例：メインランディングから定時にオフィシャルカーが上がる）
- ・抗議提出の際に供託金が必要かどうか。また、必要な場合その金額。抗議の受け付け時間。

2. 6 応募要綱

各大会主催者が提示する応募要綱に準ずる。

2. 7 参加費用

参加費用では次の事柄がまかなわれる。

- ・**ウェイポイント** ~~ターンポイント~~のGPSコーディネートダウンロード（原則、Webダウンロードにて選手が事前準備してくることとするが、データ消失や失念、大会直前のターンポイント変更等に備え準備する）
- ・エリアマップとローカルルール
- ・幹線道路からの回収（オプションとすることも可。ただし、その場合は別途費用を明確にすること）
- ・GPS ~~チェックイン~~ **トラックログの集計**
- ・**PJL参加費用（500円/大会）**
- ・**ライブトラックを使用する大会はその費用（500円/日、3日以上大会の場合は1,500円を上限とする）**

2. 8 ゼッケン番号

- ・PJL参加選手は機体にゼッケン番号を貼らなければならない。ゼッケン番号はPJL登録番号（ID番号）とする。~~PJL未登録の参加選手は、大会主催者が定める番号をゼッケン番号とする。~~
- ・ゼッケン番号は基本的に黒を用い、一文字縦60cm横30cmの判別し易い文字とする。
- ・ゼッケンは機体の下面、中央付近に（リーディングエッジ・トレーリングエッジは問わない）、リーディングエッジ方向を上部とし、わかりやすく貼られること。
- ・大会競技委員長はゼッケンに関する色その他の事項を変更することができる。

2. 9 タスクコミッティ

- ・タスクコミッティは2名の参加選手と大会競技委員長からなる。
- ・タスクコミッティはタスク内容を、安全面に注意を払い、できる限りの情報を集め協議し、その決定事項に

関しては、過半数の選手同意を求める必要がある。

2. 10 タスクコミッティの役割

- ・その日の気象予報に応じた、適切な飛行空域と、テイクオフエリアを決める。
- ・その日のタスクを選び出す。

2. 11 セーフティコミッティとその役割

- ・セーフティコミッティは、選手から3名選考される。
- ・タスクコミッティにより決められた当日のタスク内容が安全に行えるかどうかを確認する。
- ・セーフティコミッティはテイクオフ周辺を含めて飛行コース上が危険なコンディションになったとき、あるいはなりそうなときに、大会競技委員長にそれを連絡する。大会競技委員長はその情報を基にタスクを続行するかどうかを決めなければならない。ただしタスクを含めフライトを続行するかどうかの最終的な判断は飛行中のパイロット個人が下す。

2. 12 大会競技委員長

- ・大会競技委員長は、エリアに精通した人たちからの情報（空中から、地上から）と意見を組み込み、その日に合ったタスク案を提示することができる。
- ・大会競技委員長は、飛行中のセーフティコミッティに状況の変化の確認をすることができる。
- ・大会競技委員長は選手を兼任することができない。

2. 13 ブリーフィング

ブリーフィングにはジェネラルブリーフィングとタスクブリーフィングがある。

2. 13. 1 ジェネラルブリーフィング

参加選手は、大会主催者が行うジェネラルブリーフィングに参加しなければならない。その重要なインフォメーションは、公式掲示板に掲示される。

2. 13. 2 タスクブリーフィング

- ・タスクブリーフィングは気象情報、エリア地図を加味してテイクオフエリア付近で、参加選手全員に対して行われる。
- ・競技内容は漏れなくタスクボードに記載される。
- ・ブリーフィング終了から、ウインドオープンまでは最低 15 分間の余裕を持たせる。ただし、あらかじめタスク内容が発表されていた場合は最低 5 分の余裕でかまわない。

2. 13. 3 参加選手の責任

参加選手全員はブリーフィングの内容、タスクボードの記載事項に関して、正しく理解しなければならない。

2. 14 結果の表示

- ・結果の仮発表は、可能な限り早く掲示する。
- ・コンプレインの申し立てはローカルルールに決められた時間内に行う。
- ・すべてのコンプレイン、抗議（プロテスト）を受け付け、結果訂正後、大会競技委員長の確認を受け結果の正式発表とする。

2. 15 不服申立て（コンプレイン）

- ・コンプレインは訂正してもらうことが目的であり、抗議（プロテスト）を行うものではない。
- ・競技中何かに不満を持った場合、先ず担当役員にその処置につき援助を依頼する。その処置に不満がある場

合、選手は大会競技委員長又はその指定する役員にコンプレインを行うことができる。

- ・このコンプレインは不満があった場合直ちに行い、迅速に処理しなければならない。

2. 16 ペナルティおよび失格

大会競技委員長は、競技者が競技規則に違反した場合、違反者にペナルティを科すことができる。

- ・ペナルティの程度

a) 重大な違反はその日のタスクを 0 スコアとする。(重大な違反とは 4.14 項、およびローカルルールで定めた事項とする)

b) スポーツ精神に反する行為は、大会失格とする。

- ・ペナルティは、当該ペナルティが科せられた日の結果表に記載される。

2. 17 抗議 (プロテスト)

- ・2.15、2.16 に関する処置に対して抗議がある場合は、競技開始前に行わなくてはならない。
- ・抗議は、ローカルルールに決められた時間内に書面で大会競技委員長に提出しなければならない。
- ・供託金がある場合は、抗議が認められた場合は返却し、認められなかった場合は没収される。

2. 18 陪審員

陪審員は、大会競技委員長を除くタスクコミッティおよび大会に居合わせた PG 競技委員からなる。ただし、当該抗議に関わる人間は外れるものとする。

2. 19 抗議の処理

大会競技委員長は、いかなる抗議も遅延なく陪審員に通知しなければならない。

2. 20 審査

陪審はいかなる抗議についても、該当する FAI 規則および PJJ 競技規則に基づいて、双方の意見を聴取する。

2. 20. 1 処罰と決定事項

大会競技委員長は、結果および審査の概要を、公表しなければならない。

2. 21 表彰

大会での表彰は、オープンクラス (総合 6 位までおよび女子 3 位まで)、スポーツクラス (総合 6 位まで) のそれぞれに対し行う。

2. 22 結果の送付

大会の結果は、JHF 所定の大会報告書に、大会において提出された正式抗議と、それに対する処置を付記して、大会終了後 3 日間以内に JHF 事務局及びパラグライディング PG 競技委員会 WEB 事務局に提出する。(大会順位表には実際に大会に参加した選手だけを掲載し、PJJ に登録しているもの、していないもの、また、オープンクラス、スポーツクラスの区別がわかるように配慮すること)

3 飛行と安全の規則

3. 1 航空法

参加選手は航空法に基づき飛行すること。

3. 2 運用限界

参加選手は使用機材の運用限界を遵守すること。

3. 3 アクシデントとその救助

参加選手は、アクシデントを起こした場合は即座に主催者に連絡しなければならない。連絡がなく救助が出た場合、救助の要請があった場合を含め、その救助費用は選手又はその家族が負担する。(ヘリコプターの要請費用を含む) なお、アクシデントを目撃したパイロットは可能な限りアクシデントの情報(内容については4.19項参照)を大会主催者に伝えること。

3. 4 保護用具の使用

参加選手は、安全なヘルメット、効果のあるレスキューパラシュート、ハーネスからのパイロット脱落防止装置を大会期間中装備しなければならない。

3. 5 健康管理

- ・心身ともに良好でない場合はフライトしてはならない。
- ・フライトに支障をきたす薬物やアルコールを摂取してのフライトをしてはならない。

3. 6 衝突回避

- ・サーマルには、すでに旋回中のフライヤーと同方向に旋回するように入ること。
- ・飛行中、グライダーに構造上の問題が発生した場合すぐに飛行を取りやめること。

3. 7 雲中飛行

- ・雲中飛行は禁止とされ、競技役員、他の選手によって監視される。
- ・雲中飛行とは、グライダーの一部又はパイロットが雲により、第三者からの視界から消えたときのことを言う。
- ・多くの選手が雲中飛行をした場合、**大会競技委員長**は競技を中止する場合がある。

3. 8 バラスト

選手は、水又は砂のバラストを使用することが望ましい。バラストの投棄は水に限り認めることとし、他の選手、第三者に迷惑のかからない範囲で行うこと。

3. 9 通信機器

飛行中は電波法に基づき、**上空利用が可能なデジタル簡易無線機**を使用すること。

4 大会競技規定

4. 1 使用機体の変更

使用機体を大会開始後に変更することはできない。万が一使用機体が破損した場合は、大会競技委員長の許可を得て変更することができる。機体変更は、当初の機体と同等クラスか下位のクラスのものに限る。ただし当該大会での表彰は当初の機体のクラスで行うものとする。

4. 2 ゲートオープン時刻とゲートクローズ時刻

ゲートの開いている時間帯は物理的に参加選手全員がテイクオフできるだけの長さで設定する。目安として(参加人数×1分)程度。

4. 3 再テイクオフ

テイクオフ直後に、ラインの絡み、その他飛行に支障をきたすことが起きた場合は、大会競技委員長の許可を得て再テイクオフができる。

4. 4 リスタート

タスクがエラプスタイルレース(タスクの種類は4.13に後述)の場合、一度スタートラインをクロスした後も、**次のターンポイントをクロスしない限り**、再度スタートラインをクロスし直してリスタートすることができる。

4. 5 リフライト

リフライトを許可する場合には、最後のフライトが得点対象となる。

4. 6 テイクオフ方法

テイクオフ方法には次のものがある。

- ・フリーテイクオフ：選手の好きな時にテイクオフゾーンに入りテイクオフするもの。(テイクオフゾーンの大きさが十分に広い場合の推奨方式)。
- ・ランチオーダーシステム：テイクオフゾーンの前に優先ゾーンを設け、優先ゾーンに入る際に予め決められた優先順位に従って入るシステム(補足1参照)。

4. 7 スタート方法

GPSでのスタートは、鉛直方向のシリンダー(円)で作られるラインをクロスすることで確認される。地上での目視物は利用しない。スタートは、ラインをクロスしてシリンダーに入った時点でスタートする「ENTER スタート」か、あるいは最初にラインをクロスしてシリンダー内に入り、その後シリンダーから出た時点でスタートする「EXIT スタート」のいずれかで実施する。スタート時刻計測方法は「4.13 タスクの種類」に依る。

4. 8 ターンポイント

- ・ターンポイントは、主催者から提供されるGPSコординेट(座標)を中心とした鉛直方向のシリンダー(円)とし、シリンダーの大きさ(半径)はタスクを決定するときに決められる。
- ・~~ターンポイントリストは大会前に主催者のコンピューターから各選手にダウンロードされる。~~**ターンポイントは大会前に配布するウェイポイントの中から選ばれる。**
- ・主催者がターンポイントを大会期間中に加えるあるいは変更する場合は、タスクブリーフィングで告知される。
- ・ターンポイントは基本的には地上にある、目標物を目安として決められる。使用する座標系(ポジションフォーマット)はdd'mm"ss、測地系(マップデータ)はWGS84が採用される。

4. 9 ゴールおよびランディングエリア

- ・ゴール近辺に安全に降ろせるランディングゾーンを設ける。
- ・ランディングゾーンの近辺にパッキングゾーンを設ける。

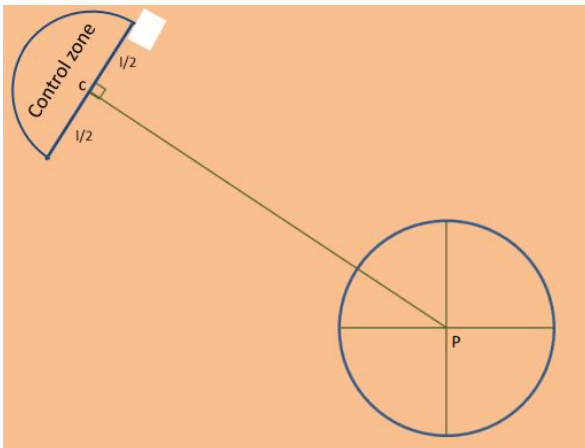
4. 9. 1 ゴールの種類

ゴールはGPSを用いた仮想シリンダーまたは仮想ラインがタスク毎にサイズとともに決定される。

シリンダー：ゴールポイントを中心とするシリンダーを用いる。半径で定義される。

ライン：最終ターンポイントPとゴールポイントCを結ぶ直線と直角に交わる線であり、両側1/2ずつ振り分けられた全長1で定義される直線部分と、最終ターンポイントPからゴールポイントCを見た反対側にCの中

心にした半径 $1/2$ の半円弧部分、とで定義されている領域（下図参照）。



4. 9. 2 ゴールの手順

選手は GPS 上のシリンダーまたはラインをクロスしなければならない。タイム計測は GPS で記録されたデータを採用する。

また、シリンダーまたはライン以前に、タイム計測のみを終了するスピードセクション（ESS（End of Speed Section））が別に設けられる場合がある（主に安全上の理由から）。その場合においても、シリンダーまたはラインをクロスしなければ、ゴールとはならない。

4. 10 タスククローズ時刻

タスクを計測する最終時刻は、タスクブリーフィングで発表され、タスクボードに掲示される。タスククローズ時刻までのフライトが得点対象となる。

4. 11 ランディング報告時刻

ランディング報告時刻は、安全上の理由からタスククローズ時刻より後に設けられる。参加選手は、ランディング後、可能な限り早く、安全に関する報告をしなければならない。報告には携帯電話などを用い、主催者が必要性の無い捜索を行わないように配慮しなければならない。

4. 12 帰着申告

帰着申告は、大会参加の意思を示した選手全員が本人自ら行わなければならない。

4. 13 タスクの種類

4. 13. 1 RACE TO GOAL（ゴールレース）

目的はゴールを最初にクリアすること。スタート時刻は全ての選手に対して同一である。スタート方法は地上又は空中からの一斉スタートを用い、スタート時刻後にブリーフィングで定められたスタート方法（「4.7 スタート方法」参照）によりラインをクロスしスタートする。

4. 13. 2 ERAPSED TIME RACE（エラプスタイムレース）

決められたコースを、最短時間で飛行してゴールすることを競う。スタート時刻は、選手がスタートシリンダーの次のターンポイントをクリアするまでの、最後にスタートラインをクロスしたときとなり、個々の選手により異なる。

4. 14 ペナルティ

- ・雲中飛行を行った選手は、そのタスク 0 スコアとする。
- ・ランディング報告義務違反は、そのタスク 0 スコアとする。
- ・帰着申告義務違反は、そのタスク 0 スコアとする。
- ・旋回方向義務違反は、警告を与える。警告に従わない場合はそのタスク 0 スコアとする。

4. 15 アクシデントの救助

アクシデントの救助に協力した選手に与えられるボーナスポイントは、大会競技委員長が算定する。

4. 16 ペナルティとボーナスポイント

ペナルティポイントやボーナスポイントは、上記以外のものを含め大会の成績に加減される。

4. 17 大会、タスクの成立条件

4. 17. 1 タスク距離

タスク距離の最小値は 20km とする。

4. 17. 2 ミニマムディスタンス

ミニマムディスタンスは、ソアラブルでないときに使用しているメインランディングと、テイクオフとの標高差の 10 倍とする (1km 未満は切り捨てて整数とする)。ただし最小値は 5km とする (標高差 600m 未満は 5km となる)。

4. 17. 3 タスクの成立条件

PJL 大会におけるタスクの成立条件は、次の項目が共に達成されたときである。

- ・物理的に参加選手全員がテイクオフするだけの時間 (例、フライト参加人数×1 分) ゲートが開いているか、参加選手全員 (途中棄権を除く) がテイクオフした。
- ・デイクオリティがゼロを超えた。

4. 17. 4 大会の成立条件

タスクが 1 本成立した時点で PJL 大会は成立する。

4. 18 タスクキャンセルとタスクストップ

競技開始後、天候が急変した場合などに、大会競技委員長はタスクをストップすることができる。大会競技委員長はタスクストップとした時刻を記帳し、その時刻から 5 分遡った時刻までのフライトでタスクの成立を判断する。(タスクストップ時の距離の測定については 4.22.1 を参照)

4. 18. 1 タスクがゴールレースの場合

スタートパイロンオープンからタスクストップまでの時間が 60 分以上 (5 分遡るため実質 65 分以上) ないと、デイクオリティがゼロとなりタスクキャンセルとなる。

4. 18. 2 タスクがエラプスタイルレースの場合

最後にスタートした選手のスタートタイムからタスクストップまでの時間が 60 分以上 (5 分遡るため実質 65 分以上) ないとデイクオリティがゼロとなりタスクキャンセルとなる。また各選手の得点は、最後にスタートした選手のスタートタイムからタスクストップまでの時間から 5 分差し引いた時間、それぞれの選手のスタートから経過した時刻での位置により決定される。

4. 19 パイロットの救助

選手は、ランディングしたならばすぐにグライダーを絞らなければならない。グライダーを開いたままにしておくということは、”救助の要請”を意味する。アクシデントを確認した選手は、次に挙げる要領で、無線を使ってできるだけ早く大会本部に報告しなければならない。

- ・自分のパイロットナンバー
- ・アクシデントの発生場所
- ・位置の特定（GPS コーディネートを用いて）
- ・アクシデントを起こした選手の名前、パイロットナンバー
- ・アクシデントを起こしたパラグライダーの色、種類など

救助を行ったパイロットには、その救助の内容を大会競技委員長が判断し、ボーナスポイントがその選手に与えられる。

4. 20 スコアリング

・計算式は、GAP~~2016~~**2018**を使用し、スコアリングおよびフライトログの判定にはFS~~2018~~**2020**最新安定版を使用する。**(原則、直近に開催されたカテゴリー1大会(世界選手権・ヨーロッパ選手権)を参考に決定し、同一年度での変更はしない。)**

・GAP~~2016~~**2018**のパラメーター（ノミナル距離、ノミナル時間、ノミナルゴール）は以下の2区分とし、**主な大会例に記載以外のエリアの場合は、大会公認時にPG競技委員会がいずれかに決定する。**

パターン①：ノミナル距離 20km、ノミナル時間 0.6 時間、ノミナルゴール 20%

→主な大会例：紀ノ川エリア、尾神エリア、獅子吼エリア、足尾エリア（秋開催）

パターン②：ノミナル距離 30km、ノミナル時間 1 時間、ノミナルゴール 20%

→主な大会例：足尾エリア（春開催）、鳴倉エリア、吉野川エリア、朝霧エリア

- ・上記以外のパラメーターはPG競技委員会が年度当初に決定する。
- ・大会の総合得点が0点の選手には順位をつけない。

4. 21 タスクボードへの記載事項

- 一般：日付、大会名、GAP ノミナルパラメーター
- タスク内容：**ターンポイント**、タスクの種類、タスクディスタンス、ミニマムディスタンス、ゲートオープン時刻、ゲートクローズ時刻、一斉スタート時刻、タスククローズ時刻、ランディング報告時刻、帰着申告時刻
- 安全に関する情報：ランディング報告用電話番号、大会本部の電話番号、指定地域におけるサーマルの旋回方向、**デジタル簡易無線の利用チャンネルと指定がある場合ユーザコード**

4. 22 スコアリングと計測方法

4. 22. 1 距離の測定

- GPS のトラックログを用いた距離測定は、スコアリングプログラム（FS~~2018~~**2020**ではWGS84）による。
- アウトランディングが認められている場合およびアウトランディングが認められていない場合で緊急ランディングに降ろすことが許されている場合は選手の飛行距離は、ベストポジション又は、ランディングした地点で計測される。ベストポジションがランディングポジションより有利な場合はベストポジションによって飛行距離が計測される。
- アウトランディングが認められていない場合で緊急ランディングあるいはメインランディングに降りなかった場合はペナルティとしてタスク得点を 10%減点する。（ローカルルールでペナルティを定める場合はその限りではない）
- タスクストップ時には、その時点の残高度に応じて、飛行距離を加算する。（GAP~~2016~~**2018**のデフォルトである滑空比**4**とする）
- テイクオフのシリンダーの大きさは原則 400m とする。

4. 22. 2 所要時間の測定

所要時間は GPS 時刻をもとに秒単位で計測する。

4. 2 3 得点計算式 (P/L フォーミュラー)

- ・フライトの得点は、小数点以下第 1 位を四捨五入し整数で表す。
- ・デイクオリティをかける前の、タスクのウィナーが 1000 点になるように各選手の得点をノーマライズしない。
- ・スピードセクションのエンドポイントに到達してもゴールできなかった選手には時間ポイントはつかないものとする。

4. 2 4 タスクの証明

- ・飛行の証明は全て GPS のトラックログで判定する。
- ・参加選手は少なくともひとつの GPS を装備すること。(使用できる機種は主催者の指定しているもの)
- ・参加選手は、GPS を正しいパラメーターにセットすること。
- ・参加選手は、帰着申告の際その日の飛行のトラックログを GPS からダウンロードすることできるようにしておくこと。

4. 2 4. 1 原則

- ・タスク証明のデータソースは各選手が使用した一つの GPS のトラックログに限られる。
- ・二つ以上の GPS ログを繋げてひとつとすることはできない。
- ・ファイルや、外部から GPS にダウンロードしたもの、その他のデータソースはタスク証明のデータソースとしては使用されない。
- ・指定メーカーのデータロガーのデータもタスク証明のデータソースとして使用されるが、データロガーのデータソースの有効性を確認するために、そのデータロガーに接続していた GPS のトラックログを求めることがある。

4. 2 4. 2 有効な GPS データ

有効なトラックログとは

- ・有効な署名データ (G レコード) が添付された IGC 形式のトラックログでなければならない。
- ・トラックログは少なくとも 2 分間、5 ポイント以上の連続したものをターンポイントのシリンダーの前後に残さなければならない。
- ・トラックログは少なくとも 2 分間、5 ポイント以上の連続したものをスタートラインの前後に残さなければならない。
- ・トラックログは時間のデータが残っている有効なものでなければならない。
- ・連続したトラックログは 20 秒以下の間隔の連続したものが望ましい。

4. 2 5 GPS 判定の基準

- ・MARK されたポジションは証明には使わない。

4. 2 6 トラックログの義務

飛行空域に制限がある場合は、GPS のトラックログでその空域への侵入を判断する。その場合はその日の飛行全体を連続されたトラックログで記録する義務がある。

4. 2 7 GPS の操作方法の習得義務

- ・パイロットは前のタスクのデータを成績が確定するまで消去してはならない。
- ・GPS が正しく作動しなかった場合はパイロットの責任である。

- ・トラックログが取れなかった場合はパイロットの責任である。
- ・提出したトラックログで正しく判定されなかった場合は、別のトラックログを提出することができる。

4. 28 不正確な GPS トラックログのペナルティ

- ・スタートポイントのミス =0 スコア
- ・連続したトラックログが要求されていてトラックログが連続していない場合=0 スコア
- ・ターンポイントのミス=ベストポジションを取り、距離得点が与えられる。
- ・ランディング後に GPS のトラックログを記録しつづけて移動するなどの行為によりベストポジションの検出が不可能となった場合=ランディング直前のターンポイントまでの距離がフライト距離となる。

補則1：ランチオーダーシステム：Launch Order System

(テイクオフ優先順位システム)

1. ランチオーダーシステムはテイクオフエリアの広さに制約があり、フリーテイクオフとすると混乱が予想される場合に、混乱を緩和することを目的とする。

2. 各パイロットはそれぞれ優先順位を示す番号を持ち、この番号が小さいほど優先順位が高い。複数のパイロットが同時にテイクオフを希望した場合、優先順位の高いパイロットが先にテイクオフゾーンへ進入できる。テイクオフの方式は基本的にフリーテイクオフであり、テイクオフを希望するパイロットが多数現れ、混雑した場合の優先順位を設けるものである。

3. パイロットは当日の受付時に優先順位を書いたステッカーを受け取り、これをヘルメットの正面近辺に貼り付ける。

4. 大会初日の優先順位は、下記のいずれかの方法で決める。いずれの方法を採用するかは、大会毎のローカルルールで規定する。

(1) 前年の最終 PJJ ランキング (オープンクラス) 1~30 位までの順位を優先順位とする。PJJ ランキング (オープンクラス) 1~30 位までの順位を持たないパイロットは、参加申し込みの早い者を優先順位上位とする。

(2) 前年の最終 PJJ ランキング (オープンクラス) 1~30 位までの順位を優先順位とする。PJJ ランキング (オープンクラス) 1~30 位までの順位を持たないパイロットは、くじ引きで優先順位を決定する。

(3) 上記 (1) (2) の優先順位に、日本代表選抜ランキング (「日本代表チーム選手選考規程」に別に定める) 上位者に優先順位を与えることを加味することもできる。(上位者の幅は、大会主催者が定めることとし、事前にローカルルールで明示する)

5. 2 日目以降の優先順位は、前日までの大会順位を優先順位とする。

6. テイクオフエリアは次の 3 つの領域 (ゾーン) に区別する。各領域はパイロットが明確に識別できるよう、線やロープなどで仕切ることが望ましい。

(1) 待機ゾーン

パイロットが機材を置き、テイクオフを希望するときまで待機している場所。

(2) 優先ゾーン

テイクオフゾーンに入るために行列をつくる場所。優先ゾーンは順序が明確に判るよう、パイロットが一列に並ぶ形状に整備する。優先ゾーンは、待機ゾーンからテイクオフゾーンに至る「通路」と位置づけられる。テイクオフする意志のあるパイロットのみ、優先ゾーンに入ることができる。

(3) テイクオフゾーン

パラグライダーを広げてテイクオフを行うゾーン。優先ゾーンの先頭から順にテイクオフゾーンへ入る。

7. ランチオーダーシステムの運用方法

(1) テイクオフ開始時間までは、全てのパイロットは待機ゾーンに居る。待機ゾーンでは、パイロットは好みの場所に居ることができる。待機ゾーン内の移動も自由である。優先ゾーンの入り口は明示され、大会スタッフにより管理されている。

(2) テイクオフを希望するパイロットは、大会スタッフの許可を得て優先ゾーンに入ることができる。複数

のパイロットが同時に希望した場合、優先順位の高い（番号の小さい）パイロットが優先的に優先ゾーンに入ることができる。優先ゾーンに入るパイロットは、パラグライダーを広げるだけでテイクオフできるように準備を完了していなければならない。

(3) パイロットの人数が優先ゾーンの許容人数に達したとき、優先ゾーンの入り口は一旦閉じられる。入り口が閉じられているときは、優先順位の高いパイロットであっても優先ゾーンに入ることはいできない。パイロットが順次テイクオフを行い、優先ゾーンの人数が少なくなったとき、優先ゾーンの入り口が再び開かれ、希望するパイロットが入ることができる。優先ゾーン入り口の開閉は、待機ゾーンのパイロットに明確に知らされるように配慮する。

(4) この方式は待機ゾーン、特に優先ゾーン入り口近辺の混乱を避けるように考慮したものである。優先ゾーン入り口近辺で待機することは自由であるが、優先ゾーンへの進入は優先順位に従って行われるので、入り口近辺で待機することによるメリットは、ほとんど無いことを理解してほしい。

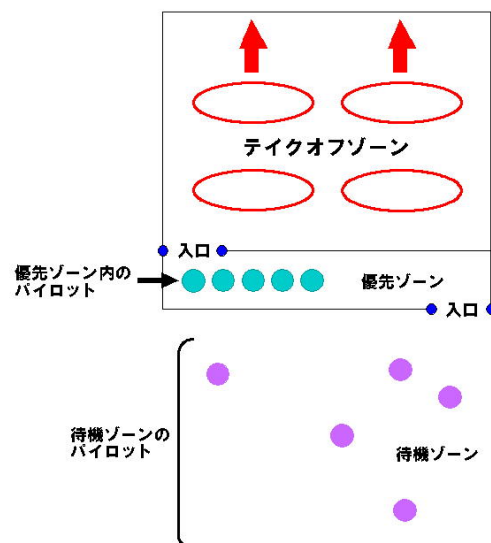
(5) 優先ゾーンに入るとは、テイクオフの意志を明示したことを意味する。優先ゾーンに入ったパイロットは、テイクオフ可能なフライトコンディションである限り、原則としてテイクオフしなければならない。

(6) 優先ゾーンに一旦入ったパイロットが、テイクオフの失敗、テイクオフディレクターの指示、または本人の希望により待機ゾーンに戻った場合、優先順位は消滅する。すなわち、優先順位を行使できるのは1つのタスクに1回限りということである。リフライトのパイロットも優先順位は無い。優先順位が無いということは、優先順位が最も低いことを意味する。優先順位が無いパイロット同士は、先着順で優先ゾーンへ入ることができる。

(7) 優先ゾーンにパイロットが居るとき、テイクオフゾーンに入ったパイロットは準備が整った後、30秒以内にテイクオフしなければならない。テイクオフの取り止めは2回まで認める。3回目に失敗したパイロットは、一旦待機ゾーンに戻らなければならない。ただし何らかの理由（テイクオフ準備に時間が掛かる等）で、テイクオフディレクターが指示した場合は、回数にかかわらず待機ゾーンに戻らなければならない。

(8) 優先ゾーンにパイロットが1人も居ない場合は、テイクオフゾーンのパイロットは自由に待機することができる。但し、その後1人でも優先ゾーンにパイロットが入った場合は、30秒以内のテイクオフを求められる。

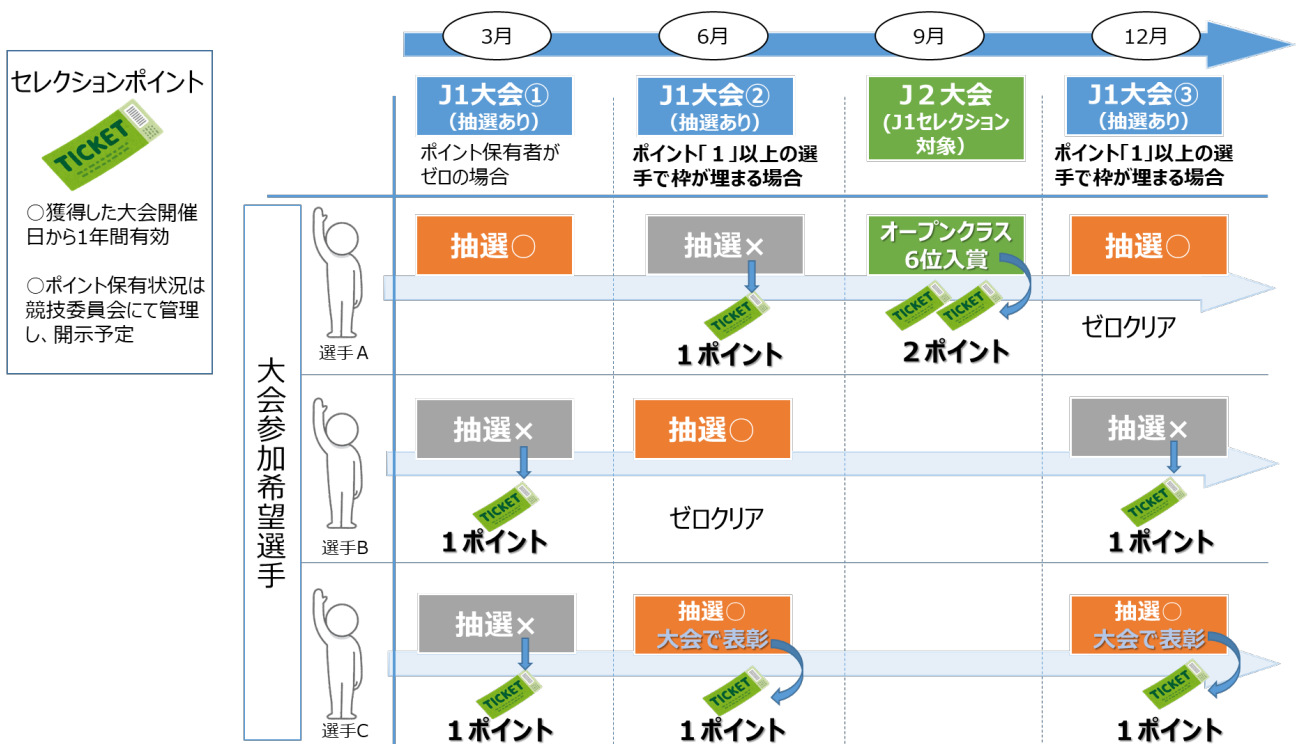
8. この規定に記述のない事項は、大会毎のローカルルールまたは大会競技委員長の判断により運用する。



補則2：セレクション抽選の考え方

1. 抽選は **PG** 競技委員会が定める可能な限り公平な方法にて、**PG** 競技委員会が実施する。
2. 抽選では「セレクションポイント」が多い選手から優先的に抽選する。
3. セレクションポイントの付与の考え方は以下の通り。
 - (1) P JL (J1) 大会でセレクションされなかった場合に1ポイント付与
(P JL 未登録、または正式エントリー要件を満たさずセレクションされなかった場合には付与されない)
 - (2) P JL (J1) 大会において、1タスク以上デイクオリティが0.2以上のタスクが成立している場合に、「2.21」に定める表彰（オープンクラス（総合6位までおよび女子3位まで）、スポーツクラス（総合6位まで））をされた場合に1ポイント付与
 - (3) 「J1セレクション対象」のP J2L (J2) 大会において、1タスク以上デイクオリティが0.2以上のタスクが成立している場合に、P J2L 規定に定めるオープンクラス総合6位以内の選手に1ポイント付与
4. セレクションポイントは、付与された各大会の「開催日初日」から起算して1年間有効（翌年同日まで有効）とし、以後失効する。
5. P JL 大会においてセレクションが発生し、抽選でセレクションされた場合に、セレクションポイントはゼロクリアとなる。（当該大会の成立有無に関わらずゼロクリア）

(参考) セレクションポイントによる抽選イメージ



(参考) セレクションポイント保有状況 <<https://jhf.hangpara.or.jp/pgc/jleague/mileage>>